

平成30年度 臨時 学校運営協議会 記録

日時： 平成31年1月16日（木）16:00~17:30

場所： 大阪府立布施北高等学校 校長室

出席者：学校運営協議会委員5名、校長、教頭2名、首席、教諭1名

1 校長挨拶（臨時開催の運びについて）

2 委員からの意見聴取

【デュアルシステムの在り方について】

- ・日本の人口は加速度的に減少しており、私学は生き残りをかけて工夫している。公立も危機感を持ち、特色づくりをすべきである。
- ・高校が廃れると、町全体も衰える。布施北高校はデュアルを通して地域との結びつきを大切にしてきた。先生方も多忙なので焦点を絞って改革していく必要がある。
- ・エンパワメントスクールになる中、デュアルシステムを形骸化させてはならない。
- ・PTAと教職員の温度差を感じることもある。時間外労働で多忙なのを知っているため、要望を言いづらい。
- ・エンパワになって志願者倍率が上がった。特色としてデュアルが根づいている。
- ・学校説明会等でPRが有効。市の行事に参加する等の積み重ねで、中学校の先生方や地域が布施北高校の特色をよく理解している。今後もいろいろな手立てを継続していくべきである。
- ・以前は中退生徒数が多く、「行くところがないので布施北に行く」というイメージだったが、ここ10年で随分印象が変わった。
- ・本会議の前に部会のようなものを実施してはどうか。

【デュアル実習の実施について】

- ・1年生のインターンシップ（2日間）はとても大切である。
- ・学校側から、生徒たちにやる気を持たせ、実習の質を上げるため今後実習人数を精選するとの提案があった。質の向上には同意する。ただ、人数を制限するなら教育的観点を持って精選することが大切。デュアル実習はキャリア教育の一環である。
- ・配慮が必要な生徒も社会で活躍する場が必要である。東大阪には意識の高い企業も多い。人数の問題もあるが、理解のある企業とのマッチングが有効である。
- ・状況によっては、校内デュアルというアイデアもある。
- ・受入れ企業側も社員教育になる。教える立場になって、社員に成長がみられることもある。

【デュアル総合学科・エンパワメントスクール発表会の実施について】

- ・発表会は生徒の目標になる。
- ・学校側から、来年以降は学年規模で実施したいとの提案があった。（多くの生徒にしっかりと発表させるため。多くの企業が参加しやすくなるため。）企業への案内を徹底してほしい。

3 提言

- ・デュアルシステムは他の学校にはない特長なので、今後もよりよい形で推進することが重要。ただ、現実的に教職員には余裕がなく、膨大な情報処理や企業と生徒とのマッチング等、持続可能な工夫が必要。学校運営協議会のワーキンググループを作り、サポートするという方法もある。